

○氏名：荻島知之

○会員番号：PEN-0074

○専門分野：Civil (Structural)

○試験日：2011年10月30日

○使用した参考書

- Civil Engineering Reference Manual for the PE Exam, 11th Edition
- Practice Problems for the Civil Engineering PE Exam, 11th Edition
- Structural Depth Reference Manual for the Civil PE Exam, 2nd Edition
- NCEES – Civil: Structural Sample Questions + Solutions

○試験当日持ち込んだ図書

- ・上記参考書
- ・Unit Conversion (PPI社)
- ・AISC - Specification for Structural Steel Buildings
- ・Standard Handbook for Civil Engineers (Mc-Graw Hill社)



体験記

(1) PE試験受験までの道のり

2000年12月頃：

大学に掲示されていたポスターを見て、PEの存在を知る。漠然と「海外で活躍するエンジニアになりたい」と思っており、英語と専門知識を一緒に勉強できるいいチャンスとPEに興味を持った。調べてみると、1次試験であるFE試験は学生でも受験できることがわかり、勉強スタート。

2001年10月：

当時大学院1年で頭がフレッシュかつ勉強時間が容易に確保できたこともあり、1回目のチャレンジ(2001年10月実施)でパス

2002年4月：

就職後もPEになりたいと思いつつも、①受験資格に実務経験があったこと、②日々の仕事の忙しさに忙殺されたこと、③周りにPEの方がいらっしゃらなかったため、たとえ試験に合格できたとしても登録できないとの思いがあったこと、からPE試験に対するモチベーションが上がらず、特に何もせず。

2005年7月：

入社3年目にシンガポールへ異動となり、石油・天然ガス掘削用の海洋鋼構造物の強度設計や施工設計・計画・管理に携わる。海外で働くようになり、PEに対する憧れがより強くなった。そこでReference Manualを購入するも、仕事が多忙を極め勉強する時間が確保できず。そうこうする間にReference Manualが改訂されたのを知り、一気にモチベーションダウン。

2011年4月：

入社10年目を迎え、35歳までに何か資格を取得したいと強く思うようになり、PE試験に挑戦することを決意。2012年4月の試験を目標に勉強開始する。

2011年5月：

担当プロジェクトのスケジュール変更により、現場施工が2012年5月までずれ込むことが判明した。そこで、前倒しで試験を受けることを決意。2011年10月をターゲットに軌道修正。

(2) 勉強方法

- 自分の専門分野であるStructural、Constructionと現在の業務に関係する分野であるWater Resourcesの1部（Hydraulics）やGeotechnicalは取りこぼしの無いように集中的に勉強した。（専門外の分野は捨てる、回答できたら儲けものというスタンスだった。）
- Practice Problemの問題を解き、Reference Manualや大学時代の教科書から回答に必要な公式や周辺知識を拾い集めて知識を拡充する方法を進めた。
- Practice Problemの問題レベルが高く、専門分野であっても思うように進まず、かなり焦る。そこで、実際のテスト問題のレベルを確認するため、「NCEES – Civil: Structural Sample Questions + Solutions」を購入した。内容を見たところ、Practice ProblemよりもReference ManualのExample程度のレベルであることに気付く。（初めから試験のレベルを確認しておけ！とお叱りを受けるかもしれませんが。）
- 2011年7月頃から、急遽Exampleを中心とする勉強に変更。問題を解くというよりも、模範解答や回答に必要な公式や周辺知識を理解することに重点を置いた。勉強法を変更してからようやく進捗が上がり始めた。
- 実際の試験を意識し、どこに何が書いてあるかインプットしたり、Reference ManualにIndexを付け試験中検索しやすいように工夫したりした。
- 相変わらず仕事は多忙で、出張も多く、なかなかまとまった勉強時間が取れない。勉強時間は平日夜@自宅と土曜日@図書館がメイン。日曜日は趣味のサッカー&フットサルや息子と遊ぶ時間にあてて、仕事及び勉強によるストレスがたまらないよう心掛けた。そのかわり、会社の昼休みや移動時間など細切れ時間を活用するよう意識した。そのためReference Manualは分野ごとに切断し携帯しやすい形にした。
- 専門分野については試験範囲すべてをカバーすることができたが、専門外分野についてはどこに何が書いてあるか理解した程度。例題に似た問題が出てくれないと厳しい状況だった。

(3) 試験

試験日の前々日：

シンガポールから日本へ帰国。実家に戻り参考書を開くも、久しぶりの日本に心が躍り勉強に集中できない。

試験前日：

試験会場近くのホテルに宿泊。自宅から通うこともできたのだが、睡眠時間を優先して会場の近くに宿をとることにしたのだが、会社から仕事に関する問い合わせが相次ぎ、その対応に追われ勉強どころではな

かった。

試験当日：

とにかく最後まであきらめないことを心に誓い出陣。10月とはいえ、常夏の南国になれた体には応える寒さがきつかったのを覚えている。

AM：

専門外の問題がReference ManualのExampleやSample Questionsに酷似した問題ばかり！参考書を参照して全て回答することができた。専門分野も難なく全て回答。手ごたえ十分！

昼休み：

頭をリフレッシュさせるため、敢えて何も考えないようにぼーっと過ごす。

PM：

後半は得意なStructuralの問題がメインなので、問題なくいけるだろうと思っていたところ、予想以上に手ごわい問題が多くかなり焦る。AMの出来がかなり良かったので、PMでちょっとこけても大丈夫だろうと勝手に開き直り。回答できる問題から手を付け、試験時間内に全問回答することができた。AM4時間、PM4時間の長丁場だったが、試験中は集中することができ、特に疲労感なども感じることはなかった。普段の激務のおかげかもしれない。

試験後：

試験の手ごたえは悪くなかったので、おそらく大丈夫だろうと思っていたが、再受験になると旅費や受験料が必要になるので厳しいなと暗い気持ちになることもあった。年末12月25日に合格通知が来たと実家から連絡があり、嬉しいと同時にこれで再受験しなくて済むとほっとしたというのが本音だった。

(4) 総評（勝因）

- 運が良かった！（専門外分野の試験問題に恵まれた）
- 試験範囲を考慮し、得意分野にフォーカスして勉強したこと。
- 隙間時間を有効に使うことができたこと。
- 趣味の時間（サッカー＆フットサル）を犠牲にせず、オンとオフの切り替えがしっかりできたこと。
- 日常の業務で海外基準、米国単位系を使用することが多かったため、PE試験の問題にも違和感がなかったこと。
- 常に英語を使う環境にいたので、英語を読むことに慣れていたこと。

(5) 抱負

まずは州登録して、PEを名乗れるようになること。そして、PEの名に恥じないようなエンジニアになることを目標に努力していきたい。JSPEの活動にも積極的に参加していきたいと思っていますので、今後ともよろしく願います。